

様式 2

平成 30 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	岩美高生としての誇りと自覚を持ち、何事にも「誠実」に対応でき、他者と「協働」して物事に取り組み、夢に向かって「果敢」に挑戦する人間を育成する。	今年度の 重点目標	1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。
-------------------	---	--------------	--

年 度 当 初				評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価 改善方策
1 進路指導の充実	○進路実現のための系統的な指導方法の充実	○ここ 6 年間進路実現100%が続いており、指導方法が確立・定着しつつあるが、生徒個々の進路希望に柔軟に対応し、より質の高い進路実現を追究していくべく、第1志望を実現させる果敢な指導が求められる。	○適切な時期に進路学習が行われ、進路実現に結びついている。 ○進路実現100%、また、第1志望での合格内定率が90%達成。 ○2年次末までの進路希望未決定者10%以下。	○進路面談や進路学習を学年との連携により強化し、3年間を見通した系統的な指導方法へ深化させる。 ○全職員による懇切丁寧な面接等の実施。 ○進学希望者への個に応じた学習指導内容を研究し、効果的な指導体制を確立する。	○評価アンケートで、進路指導は充実している(保護者)、進路決定に役立っている(生徒)が8割で、3年間を見通した系統的指導の成果が表れている。 ○3年生の進路実現100%を達成、そのうち第1志望での合格・内定率は95%を超えた。 ○2年生の1月末時点での進路希望未決定者は約5%であった。 ○進学希望者の学力向上対策としての進学対策補習や地元国公立大合格プロジェクト、さらにセンター試験への果敢なチャレンジなど個に応じた学習指導体制が確立しつつある。	B 効果のある取り組みは継続した上で、生徒個々の進路希望に柔軟に対応し、より質の高い進路実現ができるよう指導体制の充実に図る。
2 生徒指導の充実	○基本的な生活習慣とマナーの定着 ○豊かな人間関係づくりの推進	○服装頭髪再検査者数は1クラス平均8人前後である。 ○頭髪については、軽微な違反がほとんどである。 ○メール・LINE等による友人とのやり取りで小さなトラブルが起き、不安感等を感じる生徒がいる。 ○周囲への配慮に欠けた言動により不快な思いを抱く生徒がいる。	○挨拶、返事、服装等のマナーと基本的生活習慣が身に付いており規範意識を持っている。 ○再検査者数は1クラス平均5人以内になっている。 ○携帯電話等に頼らず自分で考え、直接話をする事の重要性を知っている。 ○携帯電話等の使用マナーが身についている。 ○周囲に配慮した言動に心がける。	○全校朝会にて基準を明確に示した上で服装頭髪検査を実施し、校則の徹底指導と、全職員による日常的なきめ細やかな指導を充実させる。 ○家庭との連携を密にとり、生活環境を整える。 ○生徒会主催の情報モラル研修会等の取組を充実させる。 ○岩美高生としての自覚や誇りを持てるよう学校祭、その他の行事を企画する。	○頭髪服装再検査者数は、月によってまちまちではあるが、クラス平均5人以内は達成できていない。頭髪については軽微な違反がほとんどであり、細かく指導していただいた結果と受け止めている。 ○生徒は約9割の生徒が挨拶を心掛けてしていると回答しているが、職員は生徒が挨拶や返事、日常生活のマナーが守られていると回答したのは約7割と捉えに開きがある。 ○1年生で入学前に生徒会主催のケタイ・インターネットマナー研修会、5月には全学年対象に情報モラル講演会を実施した。メール・LINE等による大きなトラブルは発生していないが、外部も含めた様々な人と繋がりを持つ生徒も多い。トラブル防止のためにも使用時のマナーを今後も継続して指導していく必要がある。 ○いじめの報告があり、人間関係づくりを進める必要がある。	C C ○引き続き生徒会主催のケタイ・インターネットマナー研修会等の指導を継続して実施する。 ○周囲に配慮した言動を心掛けるよう、機会をとらえて指導する。
3 学習指導の充実	○基礎学力の向上 ○学習指導の改善	○部活動に所属していない生徒が1名となっている。全員加入に向けての指導が必要である。 ○日常生活やボランティア活動において生徒の主体的・積極的な行動が必要である。 ○基礎学力の向上 ○ICT検定全教科の初級合格率は1年末で28%、2年末で41%であるが、3年末では100%を達成している。 ○家庭学習時間は平日で1日平均50分程度であり、増加が望まれる。また、30分未満の者が31%である。家庭学習を習慣化する必要がある。	○部活動活動加入を継続し部活動をとおして忍耐力や礼儀の向上につながっている。 ○生徒の積極的なボランティア活動や美化活動が行われている。 ○ICT検定全教科の初級合格率は1年末で30%、2年末で45%、3年末で100%を達成する。 ○平日において1日1時間以上の家庭学習が習慣化され、特に、30分未満の者が30%未満を達成する。	○部活動加入指導を徹底する。 ○イワッツクラブの活動を充実させる ○生徒主体のボランティア活動や美化活動を推進する。 ○ICT検定合格率が向上するよう、教科と学年団で現状を共有し連携して補習等に取組む。 ○家庭学習時間が少ない生徒に対して学年団で面談指導を実施する。	○部活動加入率は全校で99%であった。(未加入者は1年2人、2年0人) ○女子バレーボール部・ウエイトリフティング部・吹奏楽部が全国大会出場を成し遂げ、その他運動部、文化部ともに活気ある活動が行われた。 ○関係機関と連携したボランティア活動に積極的に参加した。 ○イワッツ検定全教科の初級合格率は1年末で6%と目標値を達成できなかったが、2年末で63%、3年末では100%に到達できた。1年生のリスタート学習の取組みは、ある程度の成果を得ているものの学年の早期での学力定着に繋がっていない。 ○平常時(4・8・10月)の家庭学習時間の平均は69分、30分未満の生徒は平均で10%であり、各目標値を達成することができた。10月調査の結果が昨年より向上し保護者によるアンケート調査で「毎日1時間以上できている」に肯定的な評価が34%であることより実態的な習慣化の雰囲気は向上途上である。	B B ○特に、2年生において日常的な基礎学力の定着を図る取組みを実施する。 ○「家庭生活調査」の事後指導等を継続的に実施していく。 B ○授業参観の促進や授業研修会の充実を図り、校内の学習指導改善の体制作りを進める。 ○授業アンケートの結果を踏まえて生徒の視点から学習指導を行い、生徒の主体的な学びの維持を図る。

平成 30 年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立岩美高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)		今年度の 重点目標		1 キャリア教育を推進し、自らの将来について主体的に考える力を養う。 2 部活動を振興し、健康で心身のバランスのとれた人間の育成に努める。 3 生徒の主体的な学びを支援し、解決する力、決断する力を身につけさせる。 4 多様な生徒を理解し、一人ひとりの自己肯定感を伸長する。 5 地域と連携した学校づくりに向けて、一層の充実に努める。		
4 保健・人権教育の充実	○個を大切に した教育環境 の改善	○生活満足度アンケート結果では、生徒は自己肯定感が高くなく、自分に自信が持てない傾向にある。 ○授業および教育環境のユニバーサルデザイン化（UD化）をさらに充実させる。	○生徒にとって学校が居心地のよい場所であり、大切にされていると実感できる。 ○学校評価生徒アンケートで、授業および学校生活に関する質問への肯定回答が85%以上である。	○生徒の自己理解・他者理解を促し、自己肯定感が高まるような取組を工夫する。 ○岩美高版UD等チェックリスト（仮称）を活用し、UD化や効果的な指導・支援を進める。	○年間を通じて、生徒観察、個人面談や個別学習指導、保護者や関係機関との連携等に努め、個に応じたサポートに取り組んだ。特に高校生活に不慣れな1学年では、仲間づくりのためのLHRを適宜実施した。また「学校に行きたくない」としばしば感じている生徒は全校で17%おり、不登校生徒も出現している。 ○評価アンケートの生徒の評価では「授業に集中しやすい環境」が86%、「自分の意見や考えを発表する機会あり」が85.5%、「授業のねらいと板書内容が明確」は85.5%の肯定回答があった。「絵や写真等でわかりやすい」は中間評価より1割程増加し75.4%となった。また、保護者の80.8%が「一人一人を大切にしたい指導やわかりやすい授業が行われている」と回答している。 ○岩美高版UDチェックリストを用い教職員個々でセルフチェックを行うよう働きかける機会が少なく、昨年度より6%減少した。	B ○生徒の自己理解・他者理解を促す取組を実施する。 ○教職員に向けたより等、生徒の自己肯定感を高めるヒントについて引き続き情報発信する。 ○岩美高版UDチェックリストを用い、教職員各自が取組を振り返ったり改善を工夫する。
5 開かれた学校づくりの実	○地域と 連携した 学校づく りの推進	○第2学年で地域貢献と人材育成を目的として「イワツ・ミッション」を実施した。実際に現地に出向き、地域の協力者と連携し、活動を展開した。 ○体育・福祉の授業や部活動で地域との交流が行われている。	○生徒が、地域と連携し地域に貢献する活動に意欲的に取り組んでいる。 ○感謝と支え合いの心を持って、地域に貢献していこうとする精神が育っている。	○重点校として地域との連携をより深め、生徒の育成を図るべく、2年目となる「イワツ・ミッション」を着実に展開していく（内容の充実・時間数の確保・連携体制の確立）。 ○校外での発表や他校との交流の機会を設ける（岩美町内・鳥取中央育英高・室戸高・環境大等）	○第2学年でイワツ・ミッションを実施した。地域連携コーディネーターの調整もあり地域の協力者の協力を得て、地域と連携し、地域に貢献する活動を実践した。活動を実践することにより、生徒の成長を促すとともに、生徒自らが将来の地域を支える存在であることを自覚させることができた。 ○今年も世界ジオパークに位置し、地域との連携を深めた教育活動を展開している室戸高の生徒を招待し（11月7日）、本校のイワツ・ミッションを通じて交流事業を行った。またイワツ・ミッションで顕著な成果をあげた班の代表の生徒を地域創造ハイスクールサミット（2月1日、鳥取中央育英高）に参加させた。 ○体育・農業・福祉、部活動など様々な場面で岩美町内の施設や自然環境を活用して活動を行い地域との連携を深めている。	B ○イワツ・ミッションについて講師、担当教員との協議を重ね、活動内容を充実させると同時に授業時間を確保していきたい。 ○第1学年のジオ学習の成果を生かした取組を検討していく。 ○地域連携重点校としての本校の体制を確立していく。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
〔100%〕 〔80%程度〕 〔60%程度〕 〔40%程度〕 〔30%以下〕